

# 大地の恵み

blessing of the earth

## 水土里の郷・平鹿

### わくわく探訪 — 土地改良施設巡り —

# vol.15

H26.3

- 「2013語り部交流会inあきた」 ～水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神～
- 一ノ目瀧の『年縞』が語る、6万年分の堆積物
- 第14回美しく豊かな農村づくり  
写真コンクール(水土里ネット秋田)
- 農政大転換に向けた施策  
— 日本型直接支払制度 —
- 平成25年度活動状況報告



あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

大地の恵み



vol.15

H26.3  
発行

発行編集 ●あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

〒010-0967 秋田県秋田市高陽幸町3番37号 秋田県土地改良事業団体連合会内  
URL <http://www.akita-midori.net/>

# あなたの声が“原動力”! 一緒に活動に参加しませんか。

### 【食料】

我が国の食料自給率は40%、もし輸入農産物がなかったら…。  
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。



### 【環境】

「水」、「土」、「里」は私たちが生きるために必要です。  
今、安全・安心なものはどれですか？



### 【ふるさと】

緑豊かな田園、心の豊かさと安らぎ、そして人間らしさ…。  
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。みなさんの参加をお待ちしております。

### 地球人会議の活動内容

- ①シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ②パンフレットや情報誌等の発行
- ③アンケート調査等による会員との意見交換
- ④インターネット等を活用した会員との情報交換

## 感想をお聞かせください。

「大地の恵み」は、皆さんの声を反映した情報誌にしたいと考えています。  
皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

- ①「大地の恵み」の内容に対する意見・感想
- ②地球人会議の活動に関する意見・感想

■水土里ネット秋田内 地球人会議事務局 TEL 018-888-2742 FAX 018-888-2834 E-mail: [chikyu@akidoren.com](mailto:chikyu@akidoren.com)

「大地の恵み」は地球人会議発行の情報誌です。  
地球人会議の会員や公的な機関および多くの方々が集う施設等で、  
回読誌としてご利用いただければ幸いです。



(シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。  
緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。



# 水土里の郷・平鹿 わくわく探訪

平成25年度  
土地改良  
施設巡り



2013.7.6(土) あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議(水土里ネット秋田)

## 農業水利施設の機能や

## 用水の働きを学習

### 今年はグリーンツーリズム企画で「そば打ち体験」実施!!

平成25年7月6日(土)、横手市で「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」(山上信子会長)主催の「水土里の郷・平鹿 わくわく探訪」が開催されました。このイ

ベントは、農業水利施設の機能や用水のはたらき、農業・農村や水土里ネットの果たす役割について理解を深めてもらうことを目的とし、通算17回目を迎えた今年度は、児童・保護者合わせて45名の参加がありました。

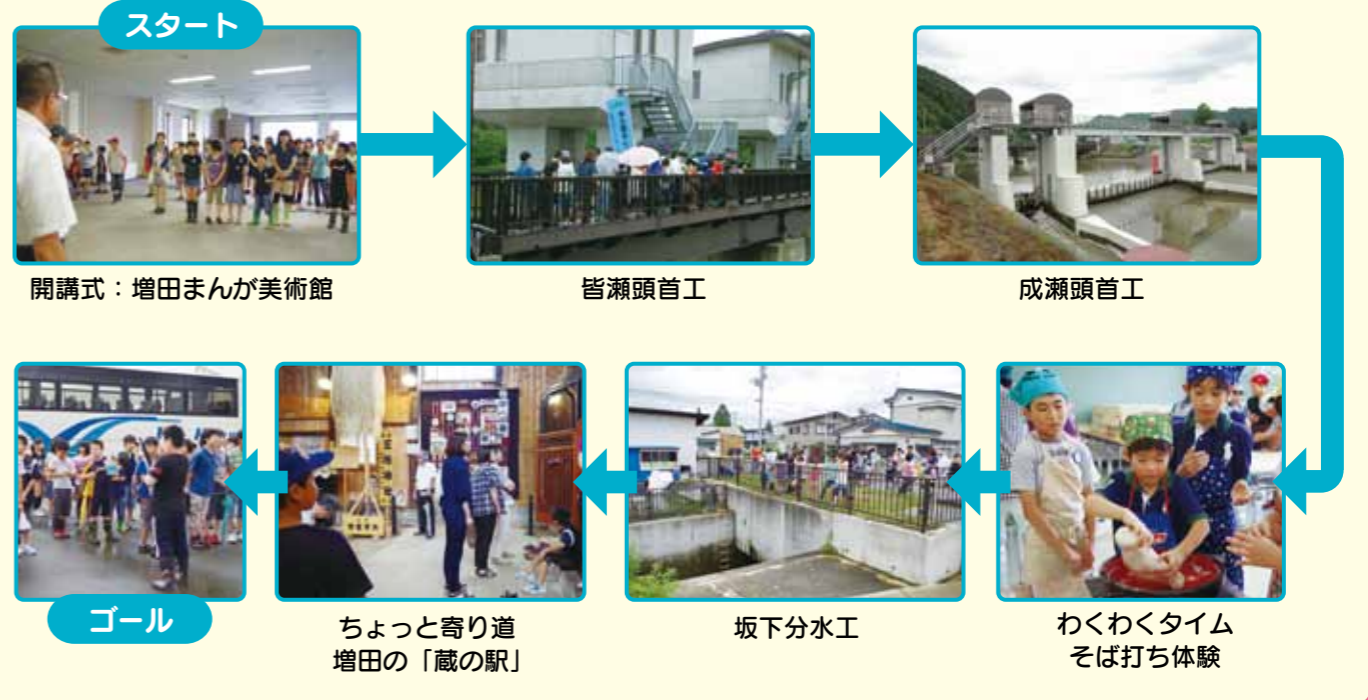
前日から県内には大雨警報が出され、雲行きが怪しい雰囲気。当日の朝、秋田市集合は、土砂降りの雨がようやく収まり始めた頃でした。欠席者は1人もおらず、増田のまんが美術館で全員集合して開講式を行う事が出来ました。

一行は、はじめに横手市増田町の「皆瀬頭首工」と「成瀬頭首工」を訪れ、水土里ネットを訪問し、増田のまんが美術館で職員の方から説明を受けまし

た。「皆瀬頭首工」では、ここで取水された水が8500ヘクタールの田んぼを潤し、またその広さが東京ドームおよそ1800個分、デイズリゾート850個分にもなることを聞いて、参加者は驚きの表情を見せていました。

続いて「釣りキチ三平の里体験学習館」を訪れ、「グリーンツーリズム」と連携した企画、「そば打ち」体験に挑戦。子ども達は粉にまみれて悪戦苦闘しながらも、どうにかそばを形作っていました。班内での協力も見られ、予定より早い時間にそばを打ち終わり講師の方々に驚かせていました。打った「そば」はお土産として持ち帰り、昼食は地元の方が作ってくれた「そば」とおにぎり」を食べ、普段食べべているものが私たちの口に入るようになるまでには沢山の苦労や手間が掛かることを身を

### 探訪コース



持つて実感し、食に対してのありがたみを改めて感じているようにでした。

午後からは横手市十文字町の「坂下分水工」を見学。参加者からは、「自分たちの身近にもこのような農業水利施設があることを初めて知った」という声があがりました。分水工が、それぞれの田んぼに平等に水を分けるための施設であることも知り、田んぼに水が届くまでは、数多くの用水路が必要なことも理解したようでした。

けど、今年は用水路の仕組みや役割が分かったし、帰りのバスではアニメで詳しく水路が危ないことを学んだ。そば打ち体験では、そばがうまく打てたのでとても嬉しかった。来年も是非参加したいです」と、来年への意気込みを語ってくれました。今回、参加の皆さんには、来年の活動にも継続的に参加して頂ければと願っています。

今回の探訪の舞台である増田地域について少しでも知ってもらおうと、古い商家の典型的な形態を有している「蔵の駅」に寄り道をしました。その後、「増田まんが美術館」まで歩いて移動し、仲良くなった参加者同士別れを惜しみながら閉講式を行いました。

昨年も参加してくれた秋田市内の小学5年生の男子児童は「去年も楽しかった





ぼくが「わくわく探訪」に行こうとしたきっかけは、自分たちで行く機会がないと思ったからです。

最初に行った「みなせ頭首工」には、ゴムせき三門がありました。そのゴムの厚さはたったの四ミリメートルなのに、よくあんなに速い水の流れを止めていてじょうぶだなと思いました。

次に行った「なるせ頭首工」で説明を聞いたら水の量は「みなせ」の六分の一で五・五トン、幅は三分の一の七十三メートルだと分かりました。それを聞いて、みなせ頭首工よりは小さいけれど、それでも大きいなと感じました。「みなせ・なるせ頭首工」には魚道というものがありました。そこには速い流れと、おそい流れがあるのを知りました。他に「く」の字の形をした「休み場所」がありました。このことを知って、魚道にも二つの工夫があるのが分かりました。

最後に坂下分水工に行ってM3がスライドゲート2門を通って、上流部、下流部に分かれているのを知りました。そして、なんでひらか町だけ分かれているのだろうと不思議に思いました。



ました。そして水路にゴミがあれば、水が汚れ、おいしい米ができないので拾えるはんでゴミをかたづけたいと思いました。

その他に行った蔵の駅のししよくのさくらんぼは、おいしかったです。今回行った「なるせ・みなせ頭首工」は田んぼにとつて、とても大事なしせつだなと思いました。楽しくすごした一日でした。ありがとうございました。

私は、わくわく探訪で頭首工や分水工などの施設を知りました。いままでは頭首工や分水工をしらなくて、見たこともなかったです。

特に、私は皆瀬頭首工におどろきました。ゴム堰、取水ゲート、魚道などで感心しました。それに、魚道のよくな魚が通れる所がちゃんとおったので、思いついた人はすごいなと思いました。私だったら魚が通れる所をつくる事を思いつかないです。

皆瀬頭首工の次に、成瀬頭首工を見て同じ頭首工でもこんなにちがうんだなと思いました。見た目はもちろん設備の数や中身もちがいました。

そば打ちの体験は、始めてでした。やり方は、テレビを見ていて知っていたのもあったけど、知らないやり方もたくさんありました。そば粉をかためたものを手でこねる時、ほかの人がやっているのを見てると簡単そうに見えたけど、実際にやってみると意外とむずかしかったです。そばを包丁で切るのがバランスよく切れなくて、そばなのにうどんのように太くなってしまいました。でも家に帰ってから食べてとてもおいしかったです。

私は、川の近くに住んでいるけど、ふだん川の水のことをあまり考えて

いなかったのが、今回のわくわく探訪で、川の水や田んぼの水のことをたくさん勉強できてよかったです。もし頭首工や分水工の近くを通ったら、今回の事を思い出して、川や水路の水をよささないように気をつけたいです。



# 2013 秋田県中山間 ふるさと・水と土『現地見学会』

in  
男鹿

## 水と土、そのすばらしい 農村風景を『継承』する精神（こころ）

平成25年10月10日（木）、本県中山間地域等の農業・農山村が有する自然景観、伝統文化・芸能、郷土食などの地域資源の魅力について、広く県民の方々に関心を持ってもらい、農地や土地改良施設などの保全・活用について理解を深めていただくとともに、中山間地域等の活性化につながる支援体制を構築することを目的に、男鹿市において現地見学会を開催しました。

通算9回目となる今回も、40名の定員が満員となるなど人気の見学会となっております。今回は江戸時代の紀行家、菅江真澄の足跡をたどりながら、真澄が愛した男鹿の農村風景を、当時の絵と見比べながら見学しました。

男鹿市は、入道崎、寒風山など秋田県を代表する観光地ですが、現地見学会では滝の頭円形分水工や、農業用水として利用されている一ノ目淵（マールと呼ばれる火山湖）、安全寺集落の棚田などの農地や農業用施設を訪れるとともに、同時開催した「ふるさと水と土フォーラム」へも参加し、講演やなまはげ太鼓などの地域芸能の鑑賞を通じて、農村地域への魅力を感じ、理解を深めました。



今回訪れた滝の頭や安全寺集落の棚田は、男鹿を訪れたことのある人からも「こんなに美しい風景があったなんて」との声があがっていました。また、菅江真澄の絵と見比べて当時から先人らが生きるために築き、大切に守ってきた農村風景を眺めて、農山村地域への関心が深まったようでした。



滝の頭の円形分水工



滝の頭湧水



二ノ目淵と戸賀湾



安全寺集落の棚田



大龍寺での講話



# 2013 語り部 交流会 in あきた

平成25年10月10日、秋田県主催、地球人会議共催の「2013語り部交流会inあきた」が男鹿市で開催された。県や市町村、農地・水協議会や土地改良区などの関係者、及び一般の方々が一堂に会し、約500名の参加となった。

基調講演を行った菅原徳蔵氏は「菅江真澄の愛した『男鹿』の農業・農村」と題し、江戸時代の紀行家・菅江真澄が今から約200年前に見た男鹿の水田や滝の頭、一ノ目瀉といった水源をなぞりながら、柳田国男や渡部斧松の人生と男鹿との関わり、また男鹿を代表する伝統文化「なまはげ」について講演を行った。

かたりすとの平野啓子氏は「語り」を通して知る農村風景の『継承』と題し、万葉集や菅江真澄の紀行文・和歌に見る日本の「農村風景」を、男鹿の風景とともに紹介。また、学習の一環として参加してくれた船川第一小学校の児童たちに、学校の教科書にも取り上げられている「稲むらの火」の語りを行った。

語りフォーラムでは、「水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神（こころ）をテーマとし、地元を代表して渡部男鹿市長、秋田魁新報社の安藤男鹿支局長、基調講演を行った菅原氏、前農林水産省農村振興局長の林田氏がパネラーとなり、様々な立場や観点からの意見を交わした。最後にコーディネーターの平野氏が「いつも当たり前のようにしている農村風景の継承、このためにはいかに多くの方々がそのおおもとなって、いる農地や水路などに関心を持って、そしてその保全に何らかの関わりを持っていけるかということが大事になってくる」とまとめた。

この交流会で、多くの方が農業・農村のこゝろを見つめ直す機会となり、地域の取り組みへの理解と協力が得られる共通のきっかけになればと思った。

## 菅原徳蔵氏



あきた森づくり  
活動サポーターセンター 所長

男鹿の農村のように手入れの行き届いた勤勉な風景を見ると心が温かくなり、なまはげなどの行事を重ね合わせると田んぼが神聖な風景に見えてくる。このような地が耕作放棄地にならずに手入れされている裏には、なまはげものを戒めるなまはげのパワーがいてきているのではないか。農地・水保全など相互扶助の精神が生きていて、自然と人間と文化が共存しているこの地域をずっと大切にしていきたい。

今年は大規模観光キャンペーンである秋田ディスプレインキャンペーン、来年には国民文化祭が控えており、2020年には東京でオリンピックが開かれる。外国の方々も沢山訪れるこの機会にこそ、男鹿の農村風景のような文化的風景を観光・文化・振興の新しい柱に据えて、色々な方々にPRしてほしい。そうすることによって後継者育成にも繋がる。

## 平野啓子氏



語り部・かたりすと、  
元NHKキャスター

真澄の紀行文の冒頭に出てくる「ほに（はき掛け）。昭和30〜40年頃は稲刈り後の田んぼにこく当たり前に見られていた。そういった風景を作り出しているのは、農の営みが継続されてきた証であり、また、農地や水路を保全し続けてきた証でもある。私たちの身近には、普段当たり前のように田んぼや畑・水路やため池などがあるけれども、その誕生の背景がそれに関わった先人の苦勞の歴史を学んで語り伝え、そしてそれらを保全する活動に取り組むことが、大きな心の支えとなり、地域の絆や、今後の活動の継続に向けた結束を強める原動力になると確信している。そして、実はほになどの風景が残っていることにより、「こういう風景があるから『稲むらの火』っていう物語が生まれたんだ」と今、日本の中で文化と呼ばれている色々なものを説得するためのすばらしい材料、本物の資料になる。

これから未来を担う子供たち、外国から来る人たちに、日本の文化というものを伝えるときに「この風景があるからこの文化が生まれたんだ」と分かる元々の風景を残しておくことが、日本の文化の支えになる。そのためには美しくすばらしい農村風景を農家の方々も農家以外の方も大人も子供もみんな、一人一人が心から大切に思うようになることが、なによりも大事ではないかと思う。





# 水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神



コーディネーター  
パネリスト  
平野啓子（語り部・かたりすと）  
渡部幸男（男鹿市長）  
安藤伸一（秋田魁新報社男鹿支局長）  
林田直樹（前農林水産省農村振興局長）  
菅原徳蔵（あきた森づくり活動サポートセンター所長）

## 事例紹介

●平野 氏  
始めに、本日のテーマであります、農村風景に関連する事例をお二人のパネリストにご紹介して頂きたいと思っております。最初は、ご当地・男鹿市長の渡部様にお願いたします。渡部様には、男鹿市のすばらしい農村風景のおもともなっております。農地や水路などの保全に關してお話して頂きます。

●渡部幸男（男鹿市長）  
語り部交流会をこの男鹿市で開催して頂いて、多くの皆様に男鹿において頂きました。男鹿からであると思っております。特にこの地の生活にとつて忘れてはならないのが、かつて掘られた水路を改修して、何十年何百年も一ノ目瀉の水を利用していくための改修工事を行って「一ノ目瀉隧道」の話。その歴史を語る上で、「内田金三郎」と「田沼慶一」、この二人が関わった水路トンネルのことについては、今一度調べ直して、しっかりと記録に残し、検証してほしいと思っております。この工事の取材を始めたときにはもうすでにトンネルを拡張して、大きな穴を開けてしまっていて、改修の後を見ることは出来ませんでした。手彫りの小さなトンネルですけれども、私はこの目で見なかったことを非常に後悔しています。この工事に携わって下さった奥の方々、さきほどの菅原さんも講演の時に沢山写真を撮られているようですから、そのときの写真をうまく活用して、昔ながらの水を使ってきた方たちの話を沢山交えながら、いい記録を残してくれればと強く思います。

男鹿市では、2人の写真家の方に年間を通して写真を撮って頂いています。1人は女性の「小松ひとみさん」。もう1人は、冒険写真家の「豊田直之さん」。自分たちが見ている気付かないような風景の切り出し方をして下さるので、新たな発見や、風景の再認識をすることが出来ます。皆さんが「良い」と言ってくれる風景があると、男鹿市にとつても誇りです。こうした活動を続けていくことによつて、農を営む水を大切にすること、そしてそれが農村風景を保つことを引き継いでいくことになつていくと思っております。今日来た子供たちに限らず、この大事な風景を引き継ぐ精神を次の世代に受け継いでいかなければならないと思っております。

●平野 氏  
貴重なお話、ありがとうございます。ずっと聞き入つてしまつて、もう終わつちやつたのかと思ひ、慌てたところで本場に、きれいだなあと、すばらしいなと感じるその現場の視線、その視線を足下にちよつ



と落としてみますと、非常に限られた人数で、農地や水路を保全していくための大変な苦勞があつて、できあがつたものを見るだけではだめなんだなあと感じました。そしてまた、地域の方々が、こういう場所を顔を合わせる機会ができてくる、そんな風にも思つて聞いておりました。とにかく、すばらしい写真の連続、そこに渡部市長さんの語りをもつて、すてきな空間がここでも頂けたと思つております。これからの子供たちにも是非伝えて頂きたいと思ひますが、市長さん大変忙しいから、全学校を回るというわけにはい

きませんものね。会場の皆様、今日お聞きしたお話を、是非ほかで、逆に皆さんの心に残ったことを語っていただければと思います。

●安藤伸一  
（秋田魁新報社男鹿支局長）  
男鹿に来て1年半、まだまだ未熟な私ですが、ここで暮らして、先人の残した大切な資産を活かし、これからも男鹿での生活を営んでいこうとする姿勢が多く見受けられます。魁新報の誌面の中で、「水と土」という企画がありまして、

●平野 氏  
本日の交流会で感じた農業・農村は...  
それでは、これまで皆様の話を伺ってきましたが、ここで農林水産省の前農村振興局長の林田様に、これまでの講演や語り、そして地元の事例を聞かれてのご感想も含めて、農業や農村についてお話を頂きたいと思ひます。

## パネルディスカッション

●平野 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●林田 氏  
本日の語り部交流会は、テーマが「水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神」(こころ)ということですが、非常にまとまったすばらしい題材とコンセプトだと思います。約200年も前に菅江真澄が見た

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな

●菅原 氏  
ありがとうございます、きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風に感じたかという思いが強くてたのではないかな







出会ったのは私初めての事です。それは私たちが行政で、こういう仕事を市長さんにご説明して、大事な取り組みですからどうか市の方でも、予算をつけて下さいとお願ひに行ったりするのですが、市長さん自ら、農村で農家だけではなくて農家以外の人と一緒に協同で草刈や水路の泥さらいをしたりするんですよ。お集まりの皆様の前で話されたのを見て本当に感動しましたし、ありがたいという風に思いました。水路はですね、10キ口とか20キ口とかある場合があるんですね。そこに田んぼがあって、昔は20軒でやっていたので、営農も20軒、水路

の泥さらいも20軒でやっていました。ですけど、規模拡大で外国にも負けない農業にしようというのを目指していますから、どうしても農家自体が減っています。土地を貸して、じゃあ任せるぞっていうことで進んでいく訳です。そうすると、大きな機械もあるし、新しい技術もありますから農業は出来ます。でも水路の泥さらいとかが1人でやるっていうのは到底無理です。農業は出来ませんから、そういうところは依然として沢山の人間に入ってもらって一緒に春と秋にやってほしいといったような目的でやっている取り組みです。みなさんに市長さんの方からどうかご理解頂いてご協力をして頂ければと思います。

文豪が目を向ける農村風景とは…?

●平野 氏  
ありがとうございます。実は林田前次長さんは、非常に文学や芸術に幅広く、色々なものに造詣が深い方です。ここで少しサプライズ・インタビュアをさせてもらいたいと思います。

当に大事なことを教えてくれたら死んでもいい、魂をお前にやる」と。こういう契約をします。そして、魔法の力でぐっと若くなって20歳くらいになるんです。それでいろいろな事を、享楽の限りをします。若いグレイトヒエンと恋愛をします。それは、その女の子の死という悲劇で終わってしまう。それで「だめだ」となって、次には歴史と

か、美しいもの、美しい景観や基礎とかそういうものをみたいということ、色々なことを魔法の力でやるんです。けれども、ヘレナという女の人の死で終わってダメになるんですね。この話長いんですが、とうとう最後のところ本人がやろうとするのが海岸地帯の湿地帯を開拓して、農地を作っている人々に住んでもらうんだという、こ

実は私の生まれは静岡県沼津で、近くに伊豆半島があり、天城の方で井上靖が色々書いているものがあって、その中にはわさび田のことを称えるような文章があり、村の風景や人情がちゃんと反映したのになって、います。そこでわさびなら、わさびが生まれる。その良さっていうのとリンクしている話で、自分の村がわさびを産することを誇りに思っている。金や銀を産してくれるよりどんなにわさびを産してくれることの方がありがたいだろう、なんて言う文章を伊豆の人たちに向けてPRするように書いていた文章があるんです。こういう文豪が目を向けている農村風景っていうものに私はすごく興味があるのですが、林田前次長は昨日、干拓で有名な大瀧村に行かれたと、何でも、干拓に関する事で、日本の文豪ではなく、みなさんもよく知っているヨーロッパの文豪がかつて自分の国のこと、あることを憂いていることについて、我々たちにお話し下さればと思います。ということで、ここで林田前次長のある文豪の、そしてこの農に対する干拓に対する語りをご披露頂きたいと思うのですが、みなさんよろしいでしょうか。(拍手)

「共同の精神に一心を捧げる」文豪ゲーテの思い。

●林田 氏  
突然お邪魔して申し訳ありません。私の話は今日の全体の話から言うと、先ほど思ったんですが、刺身とかについているような「パセリ」「みたいな。食べられないような、飾りのようだけれどここにある、そういったような感じで聞いて頂ければと思います。

今お話があった干拓とか農地開発とか、現地で渡部斧松さんのお話を伺いました。ずいぶん昔に八郎瀧の一部で干拓や埋立に取り組まれて、農地を開発して、水を持って来るという事ですね、そういう努力をされた方で、「あ、そうだ」と思った訳です。実は、つい最近読んだ本で、ドイツの詩人であり、皆さん名前はお存じだと思います、ゲーテという人ですね。ゲーテという人は、沢山の本を書きました。長生きで最後まで元気だったもので、その人が一生をかけて書いた本に「ファウスト」というのがあります。これは、着手から完成までに60年に至ったという、本人はそれができあがった時にはもう死んでもいい、やることやったというくらいに自分のすべての思いを書いた本です。その中に、農地開発や干拓が大事だとすることがあったので、



目を送るのだ。俺もそのような群衆を眺め、民とともに自由な土地に住みたい。そうなったら瞬間に向かかってこう呼びかけてもいいだろう。『生まれ、お前は美しい』と「こう言うんですけれども、この最後の言葉が最初の契約の時に、この言葉を口にしたら死んでもいいよと言った言葉でしたから、ファウストはその瞬間に死んでしまいました。そのとき100歳です。しかし、悪魔はそれを取って地獄へは持って行けなくて、一生懸命やって達成感を得た人なんて、実は天国に行くという、こういうお話であります。簡単にお話ししましたけれども、これはドイツが誇るゲーテが60年かけて書いた、ファウストという登場人物が言った台詞ですが、ゲーテの思いが入っているんですね。その中で、**農地開発は大事な仕事だ、そして、共同の精神が大事なんだと言っている。**これを読んで、まさに今日の語り部交流会のコンセプトのテーマに通じるものがあると思ってしまうんです。非常に思っているものから、少し紹介をさせて頂きました。

●菅原 氏  
先人に学び、未来を拓く！  
まず、地球人会議の会長さんから、先ほど過敏なお言葉を頂きました。ちよつと恐縮いたしているところです。男鹿南東地域について、先ほど渡部斧松のお話をしましたけれども、八郎瀧をはさんで対岸には、秋田県農業の神様である石川理紀之助がいます。できれば、石川理紀之助の話も思いましたが、それは第1回目でお話したので、今日はちよつと省略しました。この方は皆さんご存じの通り、秋田県農業の最大の祭典で

ちよつとご紹介したいなと思います。ファウストをご紹介しますと、「ファウスト」というのはその本の主人公の名前です。主人公は高齢で、たぶん90歳くらいかなと思います。哲学と、法学と、医学と神学、当時でいう大学のすべての学部、4つしかなかったんですね。そのすべての学問を完全にマスターして、これ以上ないくらい達成したんです。けれども、本人は生きて生まれてきた達成感というのが、何回も言われてきたけど分らないんです。そうしたある日、悪魔と出会って、悪魔にそのお誘いを契約をします。「俺に本



れをやるかと決意するわけですね。それも一人ではできないから、魔法の力でやるんです。そうして農地が出来て、干拓ができあがりつつある、だんだん見えそうになったという時に、その最後の最後の本場に最後なんです。『あの山脈に沿って背負った土のつづけが、これまでに開拓した農地がすっかり細くなっている。あの、腐った水垂にはけ口を作るといのが最後の仕事であり、同時に最高の開拓事業でもあるのだ。俺は数百万人の人々に、安全とは言えなくても、働いて自由に住める土地を開いてやった。野は緑に覆われ、人々も家畜も、すぐさま新開の土地に気持ちよく、大胆で勤勉な人々が盛り立てたガツチリした丘のすぐそばに移住して、外側では塩水が岸壁にまで荒れ狂っていても、内側は楽園のような国だ。そして海水が強引に浸入しようとしても、共同の精神によつてこれをふさごうと人が駆け集まる。そうだ、俺はこの共同の精神に一心を捧げる』締め最後の結論はこういうことになる。「自由も生活も、日ごとこれを戦い取つてこそこれを享受するに値する人間と言えるのだ。従つてここでは子供も大人も、同時に持つて危険に取り巻かれながらも、有意義な年

「農村風景の継承」と「先人の足跡」の結びつき

●平野 氏  
貴重なお話、ありがとうございます



ある「種苗交換会」の創設者でもあり、そのテーマが「先人に学び、秋田県農業の未来を拓く」ということです。やはり苦しいとき、先が見えない時代になればなるほど、私はやはり先人に学ぶ、あるいは過去の歴史に学ぶしかないのかなと思います。渡部先生のような先人を拜むことによって、やはり、地域の皆様方の心の支えにもなります。地域の光景を維持するにも、村

ぐるみの相互扶助、あるいは迷惑の掛け合いという精神な訳ですけれども、それを反復する意味でも、欠かせないものであると思います。それから「なまはげ」の文化も、基本的には地域の相互扶助の精神を結集すると言いますか、忘れてはならないもので、そういった歴史・文化を大切に語り継いでいくことが地域の未来を切り開くキーワードにはないかなと思っております。それから、観光文化振興については、菅江真澄をキーワードに意見交換会を行っております。キーワードをお借りしますと、「菅江真澄の記憶に学び、男鹿の観光・文化・振興の未来を拓く」という風に私は願っております。



**中山間地域の果たす役割とは...**  
●平野 氏  
ありがとうございます。ありがとうございます。では続いて、安藤様にお伺いしたいと思っております。安藤様は平成21年の魁新聞連載

企画「最高！秋田農業」のキャップをつとめられて、特に中山間地域における様々な取り組みについて取材された、ということだったんですが、農村風景の継承という視点で中山間地域の果たす役割について、お感じになられたことをお話頂きたいと思っております。

**身の回りにある事を大切にしながら、生きていける。**

●安藤 氏  
中山間地域という言葉、今月初めて出てきたと思いますが、農業の多面的機能でも言えはいいのかなって行政の方沢山いる中で思っていますが、ちょっと僕はこの言い方あんまり好きじゃなくて、どう言ったらいいのでしょうかね。大きな経済に結びつくようなことは農村風景ではないと思います。でもそのかわりもつと大事なものがあつたのではないかと。すつきりした言葉でお話しすることが出来ないと思えますけれども、2人の若者の話をしようかなと思つた。

男鹿の方は知つていらっしゃる方が沢山いると思いますが、数年前に五里合琴川に「珈音」っていうカフェができました。コーヒー豆を自分で焙煎しているところなんです。そして昨年は北浦真山に「にぎ」という古い古民家をキ

レイに改装してお山の風景もよく見える、真山・本山もよく見える場所にカフェをオープンした。この2つのカフェが僕は好きでよく行くんですが、この2つのカフェを経営する経営者は2人とも30代と若い。2人に共通するのは、目の前に広がる風景に誇りを持って、これを大事にしなければいけない。そして自分の生きていくための、生活していくための手段として十分使っていけるという強い気持ちを持って、それまでそれぞれ学校の講師、サラリーマンだったんですが、仕事を辞めてカフェをオープンしました。何年か経過して五里合琴川の「珈音」では、喫茶店の前の田んぼを耕している人が、「珈音」が夏の間、虫を見物にしていると、いうことに非常に共感して、お店の前の田んぼは無農薬でやつて、もつと虫が集まるようになって、もつと協力が現れた。そして今年、先ほど平野さんのお話で「ほに」という言葉は僕には知らなかったんですが、真山では、「にぎ」の前の田んぼには「ほに」がずらつと並んでたんですね。聞いたら頼んでないんだけど、前の田んぼをやっている人がこのカフェに合せてやってくれたようだと。... 虫の時期の「にぎ」

とてもすてきで、居心地が良く、すばらしい場所になっていくんですよ。農村風景の継承を目的に田んぼや水路を守ってきたわけではないと思います。自分たちの生活、あるいは昔からの生活様式を受け継いできたことによって、そのまま残ったということなんです。そのことによって、若者が誇りを持てる、ここに生きていくための基盤になるようなものがそこに自然とできあがつていたという事です。

中山間地域で農業活動を維持すると言つのは、目の前に起こつていることを自然に考えてみると、若者が地元で自分たちの身の回りがある事を大切にしながら生きていけるということにも結びつく。今言った2つの事例は、この2つの店に観光客が訪れて、ものすごく流行るって言うような事にはならないと思つたんですね。生きていくことにしか誇りを持ってない、そのことによって、自分が生きていくて、子供の世代まで受け継ぐものが残せる。そういったことがちよつとずつ増えていくことによって、地域が少しかだけ元気になる。少しかだけ元気になるということはものすごく大事で、人が手を入れて守り次いできた農村風景といったものがあるからこそ、そこに人が住んで、将来に希望を持って生きていけると

いったようなことが起こるのではないかと。そんなことを感じました。

●平野 氏

次に渡部様には、最も現場に近い市町村行政のお立場から、農地や水路の保全、そして農村風景の継承において、主として地域の取り組みをどのように支援・サポートしていく必要があるとお考えでしょうか。教えてください。

**地域の繋がりが強まる：農地・水保全活動の取り組み**

●渡部 氏

男鹿市では先ほど申しました9つの地域が農地・水保全事業を取り組んでいます。これを男鹿市全域に広めて行きたいと思つています。同時に語り部で平野先生が防災のことをおっしゃいましたけれども、町内会交付金制度ということで、防災組織あるいはお祭り、盆踊り、12月31日のなまはげ行事があることで町内会に交付金を差し上げています。そういうことによって地域のまとまりが広がっていく、集まりの回数が増えるということによって地域のつながりが強まる、これがまた農村のこととか、農地・水保全事業をやる良いきっかけになるということ

で、こういう事業をやつています。当然のことながら、ため池など大規模な工事というのは市がやりますし、さつきも話しましたが、材料支給等というのは市がやつていくと。精一杯私たちが出来る範囲で応援していかうと思つております。

●平野 氏

ありがとうございます。それでは、時間もだんだん押ししてきましたので、最後に安藤様、渡部様、菅原様に今後の地域作りや地域振興という観点から、農村風景の継承というテーマが持つ意味について、皆様の思いも含めて一言ずつ締めくくりの話を頂ければと思います。まず、安藤支局長お願いします。

**農村風景が、人が住み続ける基盤になる！**

●安藤 氏

農村風景があるからこそ、そこに戻つてきて新たに自分たちの誇れるものになると思つています。私も男鹿に住み始めて外から、東京あたりから友達来る度に、滝の頭湧水、安全寺の棚田の風景なんかを連れて回つて、みんながみんな、感動してくれているんですね。そういつた誇りを持ってもらいたいと思つています。そういつたものがあるからこそ、将来に向かつて、人が住んで生

きていけるっていう基盤になるのではないかな。そこは確信できる所だと思つています。今日の一連の交流会を通じて、一番感じたのはその部分ですね。農村風景こそが、将来にわたつて希望を持って生きていける、基盤になればと思つています。

**男鹿の田園風景をいつまでも残したい！**

●渡部 氏

男鹿市の大きなテーマは、教育・環境・観光です。水を大事にして農地を耕していけば、それが開会の冒頭に、県の難波次長がおっしゃつた「それ自体が観光資源になる」というものです。観光資源を極めれば、いつの日かまた語り部の方に男鹿の田園風景、美しい農村風景を和歌で詠んで頂けるような、そういう風景を残していきたいと思つています。

**安全性、付加価値の高い景観づくりを...**

●菅原 氏

「なまはげ大橋」から眺める地域は、今はまだ未整備の状態になっています。農道もあまりありませんし、おそらく維持管理に相当な労力がかかつていて思つています。安全寺集落の方もいつまで維持できるのか、それに対する補助なり支援なりも強

化していきたいと思つています。それから、例のなまはげ大橋、あそこで止まると交通上問題があると私も思つています。そういう意味で両サイドに駐車場を整備するというのが必要ではないかと思つています。これは県北の八森町も橋の上から写真を撮る人が多いということと片側に駐車場を設けたといいます。そういう観光化戦略から、安全対策を当然やつていくべきと思つています。もう一点は、私は現在、水と緑の森づくりについての仕事をやつています。安全寺地区の集落も杉林が非常に多いです。おそらく昔はもつと生物多様性のある雑木林であつたと思つています。そういう意味で雑木林にして、より付加価値の高い景観を作り出していくということも合わせて検討してみたいと思つていますし、お誘いがあるましたら、是非ご相談を頂ければなという風に思つております。

**日本の農業がアジア・アフリカの子供たちを救う**

●林田 氏

正直申しまして、今平野さんからリクエストがあつたことについて、私が伝えられることはほとんどないと思つています。本当にすばらしいことだと思つています。1つだけ違うことを付け加えさせて頂きますと、去年もここに来たんですが、食糧事情のことをちよつと話しました。去

●平野 氏

最後に、林田様からご感想とともに男鹿に対するアドバイスなどもお願いいたします。









# 一ノ目潟の湖底からのおくりもの

過去6万年のタイムカプセル



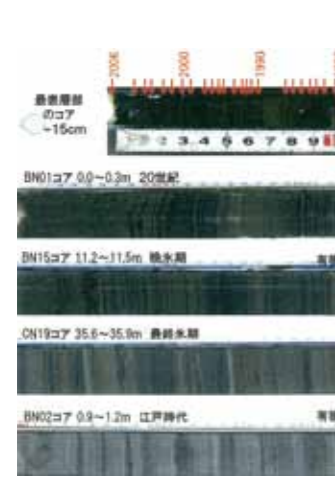
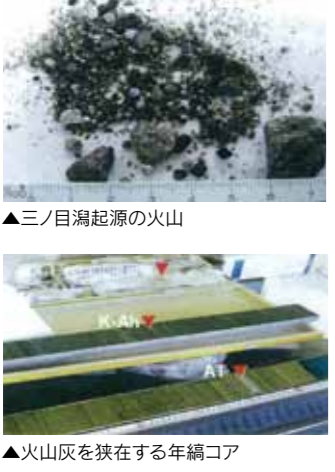
## 年縞(イースト)

一ノ目潟の湖底下に溜まっている地層には、バームクーヘンのように細かい縞模様が存在します。この縞模様は、季節によって湖の中や周辺の環境が違ってくることを反映している、「明」と「暗」の地層が1年に1セットずつでき、異なる物質が湖底下に堆積していくことにより形成され、保存されています。地質学の分野では、この地層のことを「湖沼年縞」と呼んでいます。これは、言い換えれば土の樹木年輪のことです。日本国内で年縞が堆積している場所は少なく、8カ所しかありません。その中でも、一ノ目潟の年縞は視覚的にもっとも美しい縞模様を呈して、さらに「最終氷期」という、人類が経験した過去数万年前の「一番最後の氷河時代」の地層でも、その美しさは損なわれていません。まさに日本を代表する年縞が一ノ目潟に眠っていると言えます。

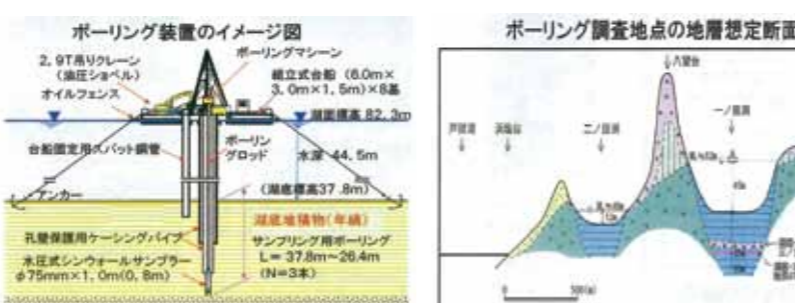
とるどころ挟んでいて、過去1000年間におけるこの地層の年代を年縞年代(天然の時計)で計算すると、日本海東縁部の秋田沖および内陸部の浅い場所でもマグニチュード6以上の地震が起きている時に形成されていることが分かっています。この地層は、過去3万年で269層確認できているので、今後は秋田の地震の発生年やその頻度を一ノ目潟の調査から知ることができそうです。この「天然の時計」と「天然のアメダス」と天然の地震計を組み合わせて、太古の時代でも「1000年は寒かった」とか、「××年は地震に見舞われた」というような過去の地球の環境を年単位で復元することができそうです。これができるのは、年縞が連続的に溜まっている湖底だけです。

一ノ目潟では、2006年秋に掘削(ボーリング)調査を行い、湖底下から全長37mの堆積物が採取されました。その結果、過去3万年から現在まで、湖沼年縞堆積物が連続的に溜まっていることが明らかになりました。翌年には国の天然記念物に指定され、今年の調査で一ノ目潟の年縞は国内最大の約60mに達していることが分かりました。これは、過去5〜6万年間に相当する堆積と考えられ、地震や噴火、気候変動に伴う植生変化などを正確に把握する手がかりとなることが期待されています。

## 一ノ目潟で採取された代表的な年縞コア

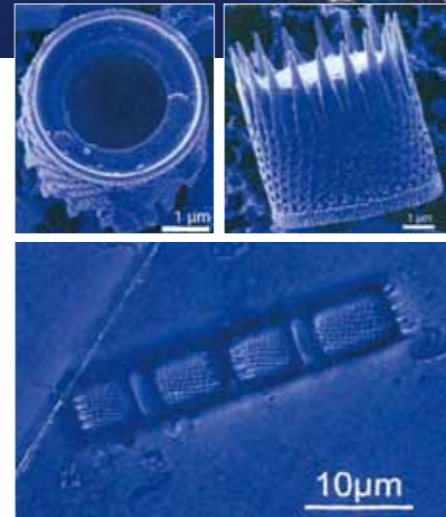


## 湖底堆積物のボーリング調査の概要



## 一ノ目潟(イースト)

6〜8万年前の火山活動に伴いできた湖で、近くの二ノ目潟、三ノ目潟とともに「目潟火山群」を構成しています。いずれの目潟もマグマの水蒸気爆発によって造られたマール湖で、東北地方でほかに例がありません。構造としては、上昇してきたマグマが地下水に反応、水蒸気爆発により窪地が形成され、そこに水が溜まったものです。マールは富士山のような丘状の噴火口を持たないという特徴があります。日本列島全体でも10カ所程度しかマール地形は確認出来ておらず、東北地方では「目潟火山群」だけです。一ノ目潟の水深は最大約45m、湖盆地形は鍋底状になっています。現在は飲用水・農業用水としても使われており、地域の重要な資源となっています。



一ノ目潟の湖底から採取された「珪藻(けいそう)」の顕微鏡写真  
Aulacoseira pusilla アウラコセイラ・プシラ  
(和名:トゲハコツナギケイソウ)  
齋藤めぐみ(国立科学博物館地学研究所)



第14回

# 美しく豊かな農村づくり 写真コンクール

入賞作品、16点が決定!! (水土里ネット秋田主催)

平成26年2月5日(水)、水土里ネット秋田主催の「第14回美しく豊かな農村づくり写真コンクール」審査委員会が開催され、水土里ネット会長賞をはじめ、入賞作品16点が選考された。

このコンクールは、秋田県内の農業・農村が持つ豊かな自然や生活環境と、農業農村整備事業に対する理解を一般の方々に深めてもらうことを目的に、県内の農村風景をとらえた写真を募集したもので、通算14回目の開催となった。

## 水土里ネット会長賞



「晩秋の山村」九嶋 操/大館市

## 優秀賞



「ちびっ子応援隊」斎藤 康樹/秋田市

## 入選

- 「水田の朝」…………… 奈良 茂雄/潟上市
- 「山の木出し」…………… 鈴木 武男/秋田市
- 「春の農繁」…………… 高橋 真一/秋田市
- 「用水路の草取り」…………… 佐藤 徳雄/大仙市
- 「酷暑の直売所」…………… 石郷岡富男/秋田市
- 「初雪の頃」…………… 日野 利和/横手市
- 「受け継がれるもの」…………… 佐藤 夢/湯沢市
- 「一服」…………… 高橋 信夫/羽後町
- 「移りゆくものたち」…………… 今泉 博平/秋田市
- 「はじける笑顔  
大根ばあちゃん80歳」… 濱田 格子/秋田市



「田園風景」九嶋 祐/大館市



「暑い日」渡邊 次夫/秋田市



「農夫」佐々木吉治/酒田市



「春の大掃除」原田 司/秋田市

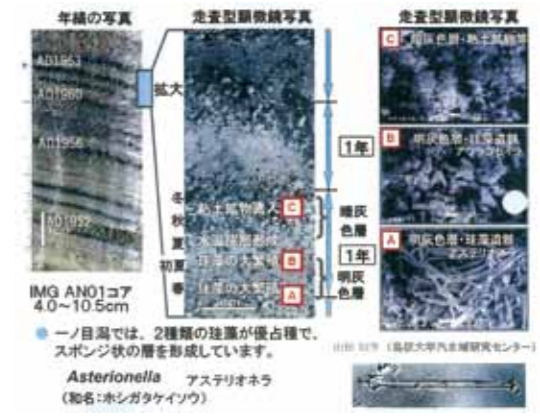
## これまでの調査で明らかになったこと

- 秋田杉が拡大した時代は、今から3500年前  
この時代は、世界的な気候の寒冷化の時代で、秋田杉はこの気候の冷涼湿潤化に適応して拡大し、以来、目瀧周辺には、スギやブナ、ナラ、ニレなどの森林が発達します。
- 古墳時代の秋田は、雪の多い冷涼多湿の時代  
3世紀半ばすぎから7世紀末までの古墳時代は、年平均気温が現在と比べて3℃前後低く、降水量も年間500<sup>mm</sup>、冬期間で400<sup>mm</sup>も多く、雪の多い冷涼多湿な時代であったと考えられます。
- 男鹿半島が大規模に開拓されたのは、西暦1000~1150年  
中世温暖期に相当する西暦800~1000年は、秋田杉が最も拡大した時代です。しかし、西暦1000年頃に秋田杉が激減するほか、1150年頃にはブナも激減しています。それにかわって、増大するのはイネ科やヨモギであることから、この時代に男鹿半島が大規模に開拓され農耕地や草原が広がったと考えられます。
- 菅江真澄の風景描写は正確  
菅江真澄が生きた時代は、小氷河期とよばれる寒冷な時代ですが、今回の調査で、年平均気温が現在より2℃低く、降水量も夏に750<sup>mm</sup>、冬に450<sup>mm</sup>少なかったことが判明しました。  
このことは、真澄が描いた目瀧の絵(水位低下)と対応しているほか、森林の少ない疎林風景も花粉分析結果と一致しています。

研究代表者 安田喜恵(国際日本文化研究センター)

## 年縞の顕微鏡写真

- 年縞を電子顕微鏡で観察すると、白い層には、幾何学的な筒状のものが見られます。これは、珪藻という植物プランクトンの「殻」です。黒い層には、白い層に含まれていた珪藻のほか、非常に細かい粘土鉱物や花粉などの様々なものが含まれています。
- 珪藻が一斉に繁殖するのは、春~夏であることから白い層が春~夏にかけてできた層で、黒い層が夏以降にできた層です。この白黒一対の縞模様が1年分の年縞堆積物となります。



## 年縞とは何か?

- 湖底に堆積した物質がちょうど樹木の年輪のように一年ごとの縞模様を描いている現象を年縞といいます。  
1年単位の環境変動を記録したバーコード状の年縞は、まさに地球の歴史を刻んだ「地球の遺伝子」です。
- 年縞堆積物の中には、花粉、珪藻、プランクトン、大型動植物遺体、粘土鉱物、黄砂等が保存されており、その解析から過去の気候変動や局地的な災害史を年単位で復元することができます。

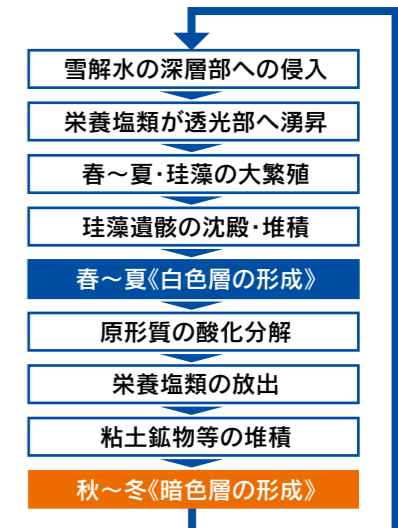
## 年縞が出来る条件は?

- 年縞が形成されるためには、大きな流入河川が無く湖底が洗い流されないこと、十分な水深があり風や波により湖底が攪拌されないこと、さらに湖底部の水に含まれる酸素量が少なく底生生物やバクテリアなどが繁殖しにくいことなど、特殊な条件が整っている必要があります。

## 年縞から得られる環境情報

- 1.気候変動(季節~年単位)
- 2.植生等の分布・生体量
- 3.降水量・降雪量の変動
- 4.人間活動等の影響
- 5.火山の噴火活動
- 6.地震活動の履歴
- 7.偏西風の強弱(大陸気候)

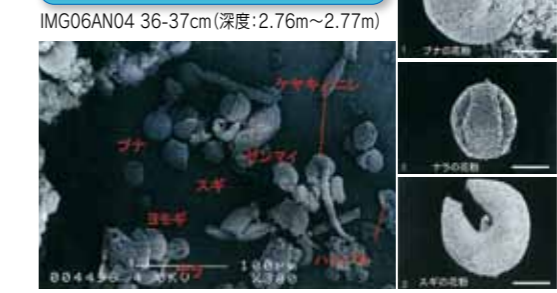
## 年縞の形成メカニズム



ここで紹介した内容は、2006年度に秋田県が環境省からの委託を受けて実施した国土施策創発調査「環境資源のワズユースによる地域コミュニティの再生と持続可能な地域づくりに関する調査研究」と2007年に秋田県が国際日本文化研究センターに委託した年縞分析調査結果を基に作成したものです。

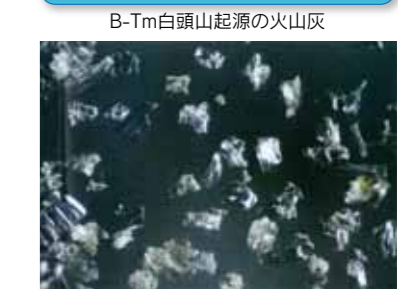
情報元: 秋田県総務企画部総合政策課

## 花粉の顕微鏡写真



北川淳子(国際日本文化研究センター)

## 火山灰の顕微鏡写真



奥野 充(福岡大学理学部)



## 活動の手順

①活動組織の設立

②活動計画書の策定

③協定の締結

④申請書類の提出

※H26年度の提出期限は、12月末頃を予定

⑤活動の実施

⑥活動の記録・報告

○従来の農地・水の活動組織でも、農地維持支払及び資源向上支払に取り組むことができます。

○活動組織は、農地維持支払及び資源向上支払で取り組む内容を話し合い、活動計画書を策定し、市町村と協定を結びます。

○活動計画及び協定の期間は、5年間です。

※農地・水保全管理支払との違い  
活動計画書に次の点を新たに盛り込んで頂きます。

①農地維持支払

- ・構造変化に対応した保全管理の目標
- ・構造変化に対応した体制の拡充・強化、保全管理構想の作成に向けた活動

②資源向上支払

- ・多面的機能の増進を図る活動

## 多面的機能支払で構造改革を後押し

**対策前**

鳥獣被害  
規模拡大しようとする、水管理や農道補修が大変になるなあ...

雑草の繁茂、路肩の崩壊  
農道

水路のひび割れ

農地は担い手に預けて、隠居するか、息子の元へ引っ越そうか...

このまま高齢化等が進めば...

- ・水路や農道等の保全・補修に係る担い手の負担が増大
- ・農地を預けた人の中には地域を離れる人も

都市では、道路や水路の管理費用は自治体が負担

農業の多面的機能は、これまで集落の人々が無償で水路、農道を守ることで維持

高齢化、人口減少により集落活動が低迷



水路の共同管理



道普請

## 多面的機能支払の導入

**対策後**

規模拡大しても水路、農道はみんなが守ってくれるのでありがたいなあ。預かった農地でしっかり稼ごう！

みんなで6次産業化に取り組むぞ！

農地は担い手に預けたけど、水路や農道はみんなで守ろう！

水路や農道等を保全・補修する地域の共同活動を支援

- ・担い手の負担が減り、安心して規模拡大に取り組める
- ・担い手への農地集積という構造改革を後押し

- 多面的機能を維持・発揮
- 担い手を支える集落共同活動や担い手以外の人達を含めて6次産業化、都市との交流で地域が活性化

農産物の加工・販売



多面的機能とは、水路、農道等を含め、農地を農地として維持することにより発揮される、国土の保全、水源かん養、景観形成等の機能

主食用米の作付や生産調整の達成とリンクしない新たな支払(デカップリング)は、経営判断をゆがめることがなく、選択の幅を広げる

# 日本型直接支払制度の概要

農業の多面的機能の維持・発揮のための地域活動や営農活動に対して支援します。

平成26年度は予算措置として実施し、所要の法整備を行った上で、27年度から法律に基づき実施します。

## 制度の全体像

創設

農地維持支払

多面的機能を支える共同活動を支援します。  
※担い手に集中する水路・農道等の管理を地域で支え、農地集積を後押し

【支援対象】

- ・農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の砂利補充等の基礎的保全活動
- ・農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化、保全管理構想の作成等

組替

資源向上支払

地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る共同活動を支援します。  
※現行の農地・水保全管理支払を組替え・名称変更します

【支援対象】

- ・水路、農道、ため池の軽微な補修
- ・植栽による景観形成、ピオトープづくり
- ・施設の長寿命化のための活動等

現行制度維持

中山間地域等直接支払

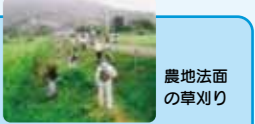
中山間地域等の条件不利地域（傾斜地等）と平地とのコスト差（生産費）を支援します。

現行制度維持

環境保全型農業直接支援

環境保全効果の高い営農活動を行うことに伴う追加的コストを支援します。

※5年後に支払の効果や取組の定着状況等を検証し、施策に反映します。



農地法面の草刈り



水路の泥上げ



水路のひび割れ補修



植栽活動



中山間地域（山口県長門市）



カバークロープ（緑肥）の作付

## 多面的機能支払(農地維持支払・資源向上支払)の概要

### 制度のポイント

- 農地維持支払は、
  - ①農業者のみの活動組織でもOK（非農業者の参加を要件としない）
  - ②農業生産を営むために不可欠な基礎的保全活動を支援とするなど、農業者が取り組みやすい制度です。

農業者だけでも支援対象になるんだ。畑や草地でも取り組み易くなるなあ。



### 交付対象者（活動組織）

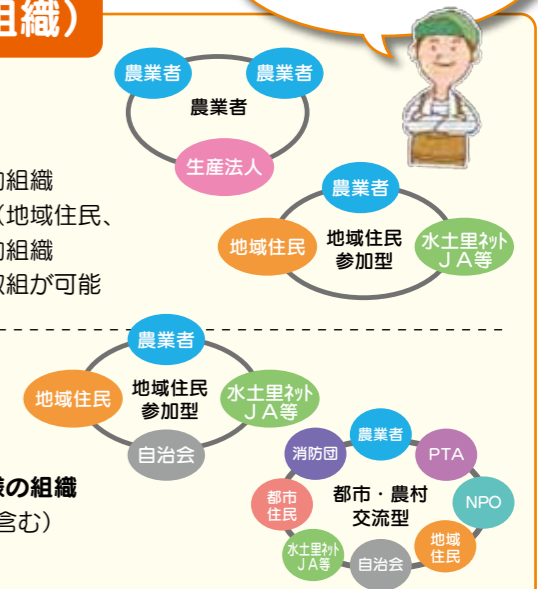
農地維持支払

- 農業者のみで構成される活動組織
- 又は農業者及びその他の者（地域住民、団体など）で構成される活動組織
- 資源向上支払と同組織でも取組が可能

資源向上支払

- 地域住民を含む活動組織
- 農地・水保全管理支払と同様の組織（農地・水・環境保全組織を含む）で取組が可能

今までの活動組織のままでも農地維持支払と資源向上支払の支援対象になるんだ。





県内水土里ネット(土地改良区)のホームページ

MIDORINET  
INFORMATION



1 水土里ネット大瀧(大瀧土地改良区)

<http://member.ogata.or.jp/~dokai/>

2 水土里ネット稲川(稲川土地改良区)

<http://inakawa.jp/>

3 水土里ネット二井田真中(大館市二井田真中土地改良区)

<http://www15.plala.or.jp/niida17hp/>

4 水土里ネット天王(潟上市天王土地改良区)

<http://www.tendokai.or.jp/>

5 水土里ネット新城川(新城川土地改良区)

<http://www.shinjougawa.or.jp/>

6 水土里ネット山田五ヶ村(雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区)

<http://www.yutopia.or.jp/~yamada5/>

7 水土里ネット湯沢中央(湯沢市中央土地改良区)

<http://www4.ocn.ne.jp/~yuzawato/>

8 水土里ネット雄物川筋(秋田県雄物川筋土地改良区)

<http://www3.ocn.ne.jp/~omosuji/>

9 水土里ネット千畑(美郷町千畑土地改良区)

<http://www.midorinet-senhata.jp/index.html>

10 水土里ネットうご(羽後町土地改良区)

<http://www16.plala.or.jp/midorinet-ugo/>

11 水土里ネット七滝(秋田県七滝土地改良区)

<http://www.k2.dion.ne.jp/~nanataki/>

水土里ネット秋田の  
ホームページが新しくなりました!

<http://www.akita-midori.net/>

新しいホームページでは  
フェイスブックによる書き込みも可能です。  
ぜひ一度、アクセスしてみてください。



平成25年度

地球人会議活動状況



1 会議等の開催

●平成25年度地球人会議・幹事会

- 内容: 運営委員会の提出議案について  
平成24年度事業報告・収支決算・会計監査報告、  
役員改選、平成25年度事業計画(案)・収支予算  
(案)、その他
- 日時: 平成25年6月10日(月)
- 場所: 水土里ネット秋田・会議室(秋田市)
- 参加者: 幹事5名

●平成25年度地球人会議・運営委員会

- 内容: 平成24年度事業報告・収支決算・会計監査報告、  
役員改選、平成25年度事業計画(案)・収支予算  
(案)の承認、その他
- 日時: 平成25年6月19日(水)
- 場所: 水土里ネット秋田・会議室(秋田市)
- 参加者: 運営委員6名



●「水土里の郷・平鹿 わくわく探訪」  
～土地改良施設巡り～

- 内容: 秋田市及び横手市の児童・保護者が参加して、皆瀬頭首工、成瀬頭首工、坂下分水工(横手市)、釣りキチ三平の里・体験学習館(横手市)、蔵の駅(横手市)など
- 日時: 平成25年7月6日(土)
- 場所: 皆瀬頭首工(横手市)、成瀬頭首工(横手市)、坂下分水工(横手市)、釣りキチ三平の里・体験学習館(横手市)、蔵の駅(横手市)など
- 参加者: 45名



●「2013語り部交流会inあきた」(共催)

- 内容: 「すばらしい農村景観」にスポットを当て、先人達の足跡を「語り」を通して見つめ直し、農村に宿り続ける「継承の精神(こころ)」を再確認する。そして、継承の精神を様々な取組に活かし、発信していくことで、地域活力の向上や農村振興につなげていくことを目的とする。
- 日時: 平成25年10月10日(木)
- 場所: 男鹿市民文化会館
- 参加者: 500名



2 会員への情報提供

●県・水土里ネット等が関係する各種事業やイベントなどに関する情報提供

●会報の発行

- 「大地の恵み vol.15」を会員に配布  
(発行予定: 平成26年3月)

●インターネットを利用した情報提供

- <http://www.akita-midori.net/> (水土里ネット秋田)
- <http://www.inakajin.or.jp/chikyu/kaigi2.html> (全国水土里ネット)
- <http://www.akita-gt.org/> (美の国秋田・桃源郷をゆく秋田のクリーン・ツーリズム情報)

3 その他

- 「農業農村整備フェア」(秋田県種苗交換会協賛行事)との連携
- 「21世紀土地改良区創造運動」との連携
- 農業体験施設「あきた体験農園」との連携・運営協力
- NPO法人秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会との連携
- NPO法人秋田パドラーズとの連携

